

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520498

研究課題名(和文) 日英語と移動表現の類型論：直示性に注目した通言語的実験研究

研究課題名(英文) English, Japanese, and the typology of motion event descriptions: A crosslinguistic experimental study with a special attention to deixis

研究代表者

松本 曜 (Matsumoto, Yo)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：40245303

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：英語と日本語の間には、事物の移動をどのように表現するかについて、表現パタンの違いがあることが知られてきた。しかし、今までの研究では、直示性(移動が話者の位置とどのように関係するか)の表現があまり考察されなかった。本研究では、ビデオ実験により、直示性を含めた移動の諸側面を、両言語がどのように表現するかを比較した。その結果、直示性を表現する条件が日英語で大きく異なることが分かった。日本語では眼前の移動についてはほぼ義務的に直示性が表現されるのに対し、英語の直示性表現は、話者領域への移動にほぼ限られ、それも、話者との社会的インタラクションがある場合に表現されることが多いことが分かった。

研究成果の概要(英文)：It has been known that English and Japanese exhibit different linguistic patterns in describing motion events. In previous works, however, the expressions of deixis have not been fully considered. In this work I compared linguistic expressions of the two languages used in describing motion events that include deictic contrasts, by examining data obtained through video experiments. Results show that the conditions for including deictic information differ between the two languages. Speakers of Japanese almost obligatorily describe deixis in representing motion events that develop before their eyes. English speakers, on the other hand, tend to limit deixis to the descriptions of motion to the speaker's domain that is typically accompanied by social interactions between the moving person and the speaker.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：日英語 移動表現 類型論 認知意味論 ダイクシス

1. 研究開始当初の背景

Talmy の移動表現の類型論を出発点とする諸研究の中で、英語と日本語の間には、事物の移動をどのように表現するかについて、典型的な相違があることが知られてきた。しかし、今までの研究では、直示性(ダイクシス)の表現があまり考察されなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、直示性の役割に注目しながら、日英語の移動表現の相違を実験的に示し、また、その相違がうまく捉えられるような、移動表現の新しい類型を考察することにあった。

3. 研究の方法

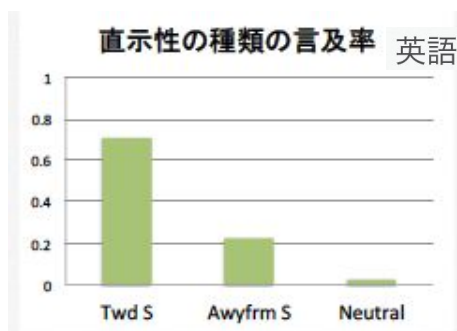
本研究の特色として、ビデオを用いた実験的研究を行ったことが挙げられる。このような手法は日本国内ではあまり例を見ないものである。英語に関する実験は、イギリスのOxford大学と、アメリカワシントン州で行い、神戸大学で行われた日本語データとの比較を行った。そのデータからをもとに、英語と日本語が、1) どのような場合に様態、経路、ダイクシスを表現し、どの場合に無視するか、2) 表現する場合に、どの位置で表現するのかの二点を考察した。

4. 研究成果

成果は大きく2つに分けられる。

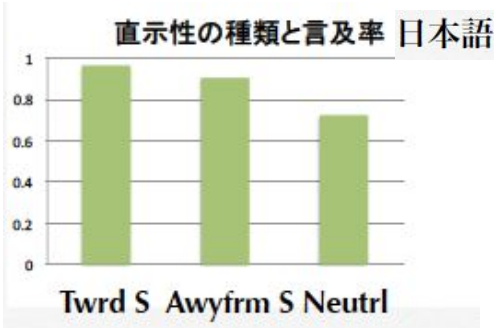
(1)直示性の表現に関しては、直示性を表現する条件が日英語で大きく異なることが分かった。日本語では眼前の移動についてはほぼ義務的に直示性が表現されるのに対し、英語の直示性表現は、話者領域への移動にほぼ限られる。それも、話者との社会的インターアクションがある場合に表現されることが多いことが分かった。

グラフ1



グラフ1は、英語における直示の言及率を示しており、話者への移動(TWD S)に限って直示性への言及率が高いことを示している。

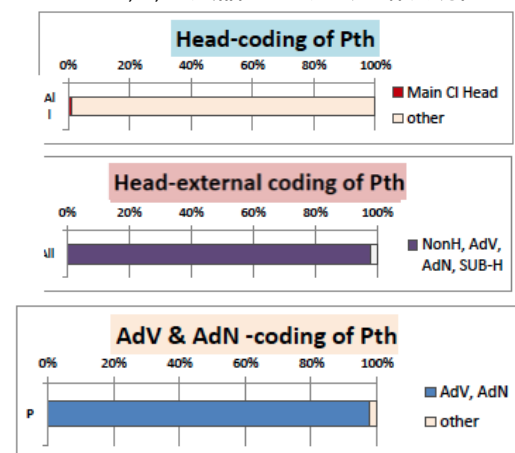
グラフ2



グラフ2は 日本語における直示性への言及率を示しており、すべてのケースで直示性への言及がほぼ義務的に行われていることを示している。

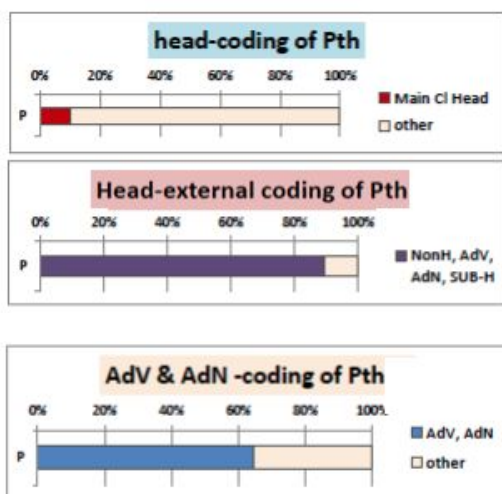
2)また、日英語の典型的パターンについては、以下のことが成果として明らかになった。(本研究では、ダイクシスを経路から独立させて類型化を行うことを提案した。具体的には、経路とダイクシスのそれぞれについて、1)文が持つ一つの主要部(主動詞)で表現される、2)文の主要部以外で表現される、3)主要部が一つに限定できない言語で主要部の一つで表現される、の三つのタイプに分けるというものである(主要部表示型、主要部外表示型、共主要部表示型)。この立場からは、英語は経路に関しては主要部外表示型となり、ダイクシスに関しては表現されないことが多いが、表現されるとすると主要部表示型であった。日本語はダイクシスに関しては主要部表示型だが、経路に関しては主要部外表示型となる。ただし、同じ主要部外表示型でも、日本語と英語では、経路を表す表現形式が大きく異なる。

グラフ 3a,b,c 英語における経路表現位置



グラフ3は、英語において経路がどの位置で表されているかを示したもので、経路の主要部外表示が圧倒的に多いこと(3-b)、その中でも、前置詞、小辞などの要素(AdNominals, AdVerbals)が多いことが分かる(3-c)。

グラフ 4a,b,c 日本語における経路表現位置



グラフ 4 は、日本語において経路がどの位置で表されているかを示したもので、圧倒的に、経路の主要部外表示が多い(4-b)が、AdNominals, AdVerbals (日本語では後置詞)は、英語の場合よりも少ないことが分かる(4-c)。日本語において多く見られたのは、「入ってくる」の「入って」のような、非主要部の動詞要素による経路表示である。

日英語の経路表現の違いに関するもうひとつの見方は、その表現が移動・使役移動というイベントタイプの種類に共通して使われる要素かどうかである。英語の経路表現が前置詞、小辞など、移動、使役移動などのイベントタイプに共通して用いられる要素であるのに対し、日本語では移動と使役移動で異なる語形(「上がる」「上げる」など)を持つ動詞が用いられるのである(共通要素言語 vs 非共通要素言語)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

松本 曜 2014. 「日本語の空間移動表現: 通言語的実験から捉える」 『国語研プロジェクトレビュー』 4: 1691-196. [査読なし]

Matsumoto, Yo (2011) Typologies of lexicalization patterns and event integration: Clarifications and reformulations. In Adele Goldberg (ed.) *Cognitive linguistics* (Critical concepts in linguistics), Vol. III, 422-439. London: Routledge. [査読有り]

秋田喜美・松本 曜・小原京子 2010. 「移動表現の類型論における直示的経路表現と様態語彙レパトリー」 『レキシコン・フォ

ーム』 5:1-25. [査読なし]

[学会発表](計 7 件)

Matsumoto, Yo. 2014. Typology of motion event descriptions: Manner, path and deixis across and within languages. Paper presented at Ninjal Typology Festa 2014. 国立国語研究所 2月23日 (招待有り)

Matsumoto, Yo. 2013. Determinants of Manner, Path, and Deixis saliency across languages. Paper presented at Sylex III: Space and Motion Across Languages and Applications. サラゴサ大学 (スペイン) 11月21日 (招待有り 基調講演)

Matsumoto, Yo, K. Akita, F. Andreani, K. Eguchi, N. Imazato, K. Kawachi, I. Matsuse, T. Morita, N. Nagaya, K. Takahashi, R. Takahashi, & Y. Yoshinari. 2013. Crosslinguistic tendencies in the intralinguistic variations of motion descriptions: An experimental study of manner, path, & deixis. Paper presented at the 12th International Cognitive Linguistics Conference. アルバート大学 (エドモントン、カナダ) 6月27日 (招待無し)

松本 曜 2012. 「移動事象の言語化における様態、経路、ダイクシス情報: 通言語的実験研究から」 「言語と人間」研究会特別講演会 於立教大学, 2012年12月15日. (招待有り)

松本 曜. 2011. 「日英語話者はいつ直示動詞を使うか: 直示性の言語化に関する実験研究」 日本英語学会第29回大会 新潟大学 11月12日. (招待有り 招聘発表)

Matsumoto, Yo. 2011. Motion typology reconsidered: Path coding in different event types. 11th International Cognitive Linguistics Conference, Xi'an International Studies University, Xi'an, China, July 14, 2011. (招待無し)

Matsumoto, Yo. 2011. Varieties of Path Expressions within and across languages. Workshop on "trajectory", 4th International Conference of the French Cognitive Linguistics Association 'Cognitive linguistics and typology: Language diversity, variation and change.' Laboratoire Dynamique du Langage / Université Lyon 2, Lyon, 24-27 May 2011. (招待有り 基調講演)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]
出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[www.lit.kobe-u.ac.jp/~yomatsum/motionbi
blio.html](http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~yomatsum/motionbi
blio.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 曜 (Yo MATSUMOTO)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：40245303

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：